

今回の題材は『ガラスの地球を救え』。

内容を4つの項目に分け、当てはまる作品のシーンをテーマにしたコーヒーを飲んでいただけます。

今年で5回目を迎える宝塚市でのジャパンコーヒーフェスティバル。この地は、手塚治虫が5歳から24歳までの約20年を過ごした場所です。

今回テーマにするのは、彼のエッセイ『ガラスの地球を救え』。手塚氏がこれまで作品に込めてきた考え（地球環境や戦争、科学の発展に対しての危機感・未来や子どもに対する大人の責任・私たちはどう生きていくかという問いかけなど）がはっきりと、しかし丁寧に分かりやすい言葉で書かれたエッセイです。今回は「自然（生物）」「戦争（生命）」「科学」「未来・こども」の4つの項目に紐づいた文章をエッセイから抜粋。さらにその文章のエッセンスが表現された手塚作品のシーンをテーマにし、各出店者に渾身の一杯をご用意いただきます。それらを飲み比べていただきながら、コーヒーという飲み物を通じて作品をじっくりと感じてみてください。



1. 自然（生物）

地球生命の貴重さ、すべての生物との共存、そして五感で捉える自然の豊かさを語る項目

林の向こうに真っ赤に大きく揺らめきながら沈んでいく夕日や、風のざわめき、青い空に高く流れる白い雲——そんな自然にふれたとき、たとえ幼くても、ぼくはいつもやさしい気持ちになっている自分を感じていました。大人になったいまだって、それは同じ。きっとみんなそうだろうと思います。

「自然がぼくにマンガを描かせた」より抜粋

2. 戦争（生命）

国家による暴力の悲惨さ、歪んだ正義への警鐘、そして「生きる意味」の本質を問う項目

悪の条件というか、規制の悪の例というのがいっぱいあると思うのです。そのパターンに当てはまらなければ、悪とは認められないというところに、悪の規定の限界がある——つまり、もう誰も気がつかない悪、というのは悪として描きようがない。

「悪の魅力」より抜粋

3. 科学

ひたすら進歩のみを追求する科学技術への危惧と、人間性の喪失に対する警告の項目

科学の進歩は本来人類に幸福をもたらすはずだったものです。ところが、今では地球を痛めつける悪い奴になってしまった。生産性を上げるために人類の寿命を縮めるなど、本末転倒もはなはだしいことを否定できる人間はいないに違いありません。

「科学の進歩は何のためか」より抜粋

4. 未来・こども

子どもの無限の可能性、想像力の重要性、そして大人が果たすべき次世代への責任を説く項目

ただひたすら、一見平和な体制社会の中で、日々を安楽に生き延びるのみの处世術が大人ばかりかこどもの内面にまで根を下ろしてしまいました。たとえ、どんな状況にあっても、明日への夢につなげていくための活力や理想を育むことがわれわれ大人の責任ではないでしょうか。

「子どもの未来を奪うな」より抜粋

